

Title	序
Sub Title	
Author	佐藤, 朔(Sato, Saku)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1963
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.14/15, (1963. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	西脇順三郎先生記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00140001-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

佐 藤 朔

西脇順三郎先生は、四十数年に亘って、慶応義塾大学で英語英文学を教えられ、慶応義塾外国語学校長、文学部長、通信学部長の重職を経て、本年三月に退職された。慶応義塾には、昭和二十五年に大学から幼稚舎にいたるまでの文学美術関係の教職員卒業生をもって成る芸文学会が創立され、西脇先生はその初代の会長をつとめられた。このたび先生のご退職に際して、知友、教え子たちが相集まって、ここに記念論文集を発刊するにいたったことは、永らく薫陶を受けた者のひとりとして、私も大変喜ばしいことと思っている。

西脇先生の専門は英語英文学であられたが、その該博な知識は、東西の古典から現代に亘り、文学思想から美術、植物学に及び、その講義、著書、談論によって、多くのひとびとを啓発され、教化された。その学風は飽くまでも厳密、精緻を極め、しかも清新、創意に満ち、しばしばその新説、新解釈には目を見張るものがあった。

西脇先生は一方、詩人として若い頃から詩作にしたがわれ、わが国に超現実主義シュペリアルイズムを紹介し、独自で新鮮な作品をつぎつぎに発表し、現代詩人会々長をつとめられ、現在は日本芸術院会員に選ばれておられる。

学者で、詩人で、そして画家でもあられる西脇先生は、いずれの領域に於ても、同じ思考法と同じ表現法とを用いられているように思われる。古典と現代の文学に対して、また詩的文学と造型的芸術に対して、さらには西洋と東洋に対して、いつも同じような精神と

態度を以てされている。それだけに先生の学問の中にはポエジーがあり、作品の中には学問がひそみ、時にはそれらが異端難解に走ることもあったが、またそれが私たちにとって非常な魅力でもあった。

いまここに西脇先生の記念論文集を編むに際して、慶応義塾芸文学会の会員諸氏による学術的論文をもってしたが、各国各時代の文学芸術を扱うことが出来たのは、いささか先生のこのような全人格と全業績を讃えるにふさわしいものと信ずるものである。

一九六二年十月